

# DOCUMENT series 176 Eye

混合交通を観察する

首都高速道路(以下、首都高)は総延長が約283km、1日あたりの交通量は約113万台にのぼる。交通事故発生件数も多く、物損事故を含めると年間約1万3000件の交通事故が発生している。特徴的なのは『追突事故』の発生が多い点で、(財)交通事故総合分析センター発行の『交通統計(平成15年版)』に

## 首都高を走るドライバーの車内での行動は?

WHY



観察場所 / 東京都千代田区北の丸公園・首都高速道路環状線・竹橋ジャンクション付近  
観察日 / 9月10日(水曜日) 天候 / 晴れ  
観察時間 / 10:50 ~ 11:50 観察者 / 5名

写真上 / 渋滞時に車内で書き物をするドライバー  
写真下 / ジャンクション付近では突然車線変更するクルマが多く見られた



よると、平成15年中に首都高で発生した交通事故件数2571件のうち、『追突事故』は2123件であり、実に82.6%を占めている。  
首都高の環状線は見通しの悪い急カーブやトンネル部分も多く、渋滞が日常的

# 首都高を走るドライバーの車内での行動を観察する 首都高で1時間に「ながら運転」をしていたドライバーは215名(観察した車両2804台中)

に発生している。首都高を走るドライバーは、車内でどんな行動をとっているか観察した。

WATCHING

## 渋滞時には脇見運転のドライバーが増える

観察場所は、環状線と池袋方面に至る5号線の分岐点となる竹橋ジャンクション付近。観察の前半では環状線外回りの池袋方面に向かう車が渋滞していたが、観察の後半では、環状線・内回りが渋滞となった。

1時間に観察した車両は2804台で、7割近くが乗用車、3割がトラックやバス等の大型車であった。

走行中の「ながら運転」では、携帯電話で通話しながら走行するドライバーが多く、中には通話に気をとられていたためにカーブの手前で蛇行するトラックも観察された。

渋滞になると、携帯電話のメール等を見る(入力する)ドライバーが目立ち始める。そして、エアコンやカーナビ(カー



写真上 / 走行中、タバコを吸いながら片手運転するドライバー  
写真下 / ハンドルにもたれかかりながら運転するドライバー

ステレオ)の操作、喫煙、探し物など一般道路での信号待ちの状態に似てくるようになった。この他、ハンドルに両ひじをつけて運転したり、地図を広げたり、おにぎりやパンを食べるドライバーまで現れた。渋滞時には注意力が散漫となり、脇見運転となるドライバーが増えるようになった。観察中、合流してくるクルマが本線上の二輪車と並走し、幅寄せするような状態になった場面があった。このときは二輪車のライダーが減速して、そのクルマを先に行かせることで安全を確保していた。

PROPOSE

## 渋滞時も正しい運転姿勢で周囲の情報を得る

首都高でも一般道路と同じように、渋滞になると、携帯電話使用などの「ながら運転」が目立つ。「ながら運転」によって脇見状態となることは、追突事故や接触事故を起す原因になる。首都高で追突事故の発生が多いのは、このことにも理由があるのではないだろうか。

走行中はもちろん渋滞時にも、ドライバーは「ながら運転」はやめて、周囲の情報をより多く集め、安全運転を心がけてほしい。また、安全確保のために周囲の情報を素早く正確に得るためには、シートベルトの着用を含め正しい運転姿勢を保つことも大切である。

	大型車	乗用車	合計
携帯電話(メール使用等含む)	44	53	97
タバコ	24	13	37
探し物	4	3	7
読書・マンガ・地図	2	4	6
食事	2	3	5
会話	3	11	14
その他	13	36	49
合計	92	123	215

エアコン・カーナビ等の操作、書き物、脇見、ハンドルにもたれかかる、背伸び、頬杖をつく等

	大型車	乗用車	合計
シートベルト着用	649	1872	2521
シートベルト非着用	216	67	283

SJ Mail

ご愛読者の皆様へ  
今月号に対するご意見・ご感想をお寄せください!!

SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただくため、日頃よりご愛読いただいている読者のみなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。今月号へのご意見・ご感想は右記のメールアドレスへ。 sj-mail@ast-creative.co.jp  
弊紙に対する個別のご質問には回答できかねる場合がございます。あらかじめご了承ください。